



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り12月号
平成28年11月30日
横浜市立旭小学校

「家族」になろうよ

学校長 加藤 和之

先週には、54年ぶりとなる11月の初雪が降りました。東京では積雪も記録し、これは観測史上初ということでした。本格的な冬がすぐそこまで来ているようです。学校では風邪や胃腸炎が増える気配も出てきています。ご家庭でも、うがいや手洗いの励行などをお願いいたします。12日(土)には「あさひまつり」が行われ、大勢の子どもたちが参加しました。楽しいコーナーの数々に、子どもたちの笑顔が溢れる一日となりました。改めてPTAの皆さんのご努力に感謝したいと思います。

さて、10日(木)に「全校遠足」が行われました。当日は木枯らしの吹く寒い一日でしたが、子どもたちは元気に活動を進め、「たてわりグループ」での「つながり」を深めることができました。「三ツ池公園」までの経路の途中では、多くの保護者の方に見守っていただきました。ご協力ありがとうございました。

当日の出発式の時、「たてわりグループ」ごとに並んだ子どもたちを見ていたら、私の頭にある言葉が思い浮かんできました。それは、「家族」という言葉です。普段の「あさひタイム」での活動や、たてわりを取り入れた「運動会」などを通して、学年間の距離がぐっと縮まった各グループの様子は、単なる異学年のグループではありませんでした。そこには、まず6年生のリーダーがいて、みんなの様子に気を配っています。中学年の子が1年生に何か話しかけています。どことなくみんな嬉しそうです。その姿は、まるで目に見えない絆でつながる「家族」のようだったのです。こういった微笑ましい光景は、三ツ池公園に行ってから随所で見ることができました。

昨年の学校便り「あさひ」11月・12月号でも、私は「全校遠足」のことを取り上げています。11月号は「学年の垣根を越えて」というタイトルでした。今年度、旭小では異学年同士の「つながり」を大切にすることで、「思いやり」や「規範意識」を育てたいと考え、たてわりグループ活動の充実を図ってきました。そして、普段の「あさひタイム」の取組で積み重ねてきたものが、「運動会」「全校遠足」という大きな行事で、成果として少しずつ表れてきていると感じます。子どもの姿が具体的に变化してきたという実感が、私の文章のタイトルが「垣根を越える」から「家族」へと変わってきたことに表れていると気付きました。

「話し合いをしている時、みんなに楽しんでもらえるか不安だったけど、学校に帰る時にも、1～6年生のみんなが『楽しかった。また来たい!』と言ってくれて、疲れも無くなりました。」

「低学年の子が勝手にどこかへ行ってしまうので、さがすのが大変でした。でも4、5年生が手伝ってくれたので良かったです。」

「今年は、先生たちではなく、自分たちでつくる全校遠足だと実感しました。」

活動を振り返る「個人カード」があるのですが、リーダーの6年生は、このように全校遠足の「手応え」について書いています。当然苦労もあったことと思いますが、みんなが責任感をもって下級生を引っ張っていたことが分かります。それがグループの下級生にも伝わり、それぞれの学年なりのとらえ方で「リーダーの言うことを聞こう。」「リーダーを助けよう。」など、自分なりに「どう活動したらよいか。」を考えたのではないのでしょうか。グループ内で「信頼感」が生まれ、それが「家族」のような姿につながったのだと思います。

人間関係の希薄さが懸念される昨今だからこそ、これからも異学年同士が「家族」のような「つながり」で結ばれるよう取り組んでいきたいと思っています。

早いもので、もう師走を迎えます。今年も本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。皆さま、よいお年をお迎えください。

12月の取組目標

生活目標

ものを大切にしよう

保健目標

体をきたえよう

清掃目標

すみずみをきれいにしよう

給食目標

環境を整えてなごやかに会食をしよう

